

Japanese Graded Readers

レベル別 日本語多読 ライブラリー



にほんごよむよむ文庫

レベル **2** vol.2 10

最後の葉



原作 = さいとう・たかを

簡約 = 栗野 真紀子

挿絵 = 中島 梨絵

監修 = NPO法人日本語多読研究会

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

さいごは
最後の葉
~ *The Last Leaf* ~

原作（げんさく）：オー・ヘンリー（おー・へんりー）

簡約（かんやく）：栗野 真紀子（あわの まきこ）

挿絵（さしえ）：中島 梨絵（なかじまりえ）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

<監修者紹介>

NPO 法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

とうけんきゅうかい がくしゅうしゃ のための「よみもの」をつくることを目的に、にほんごきょうし
当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が
あつまって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。
「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」の授業の実践・研
究をしたりしています。http://www.nihongo-yomu.jp

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル 2] vol.2

最後の葉 -The Last Leaf-

2007年6月1日 初版 第1刷 発行

2011年6月20日 初版 第2刷 発行

原作：オー・ヘンリー (O. Henry)

簡約：栗野 真紀子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：中島 梨絵

監修：NPO 法人 日本語多読研究会

ナレーション：篠原 明美／山中 一徳

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：浅妻 健司

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町 2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人日本語多読研究会 2007

Printed in Japan ISBN978-4-87217-642-1

にほんご よむよむ文庫 レベル 2

さいごは
最後の葉
~ *The Last Leaf* ~

原作（げんさく）：オー・ヘンリー（おー・へんりー）

簡約（かんやく）：栗野 真紀子（あわの まきこ）

挿絵（さしえ）：中島 梨絵（なかじまりえ）

監修（かんしゅう）：NPO 法人 日本語多読研究会（にほんご たどく けんきゅうかい）

昔、ニューヨークのグリニッジ・ビレッジは、道がとても狭くて、

古いアパートがたくさんありました。

そこには、お金のない若い画家（絵を描く人）がたくさん住んでいました。

ジョン・ジーンとスーも画家でした。

この二人の女の子は、古くて安いアパートに住んでいました。

二人は、とてもいい友達でした。





ある年としの十一月じゅういちがつ、

ジョンジーは、重い病びょうき気になりました。

肺炎はいえんでした。昔むかしは、この病びょうき気で死ぬし人ひとが

たくさんいました。

ジョンジーは、毎日まいにちベツドで寝ねていました。

そして、窓まどから外そとを見ていました。

ある朝あさ、医者いしゃが来きました。

医者いしゃは、ジョンジーに薬くすりを渡わたした後あと、

スーを部屋へやの外そとに呼よんで言いいました。

「スー、ジョンジーの肺炎は、

とても悪くなっているよ。

ジョンジーには、

元気になりたいという強い気持ちがない。

自分は、もうよくならないと思っているんだ。

これでは、薬を飲んでも、よくならない」

スーは、とても悲しくなりました。

医者が、また言いました。

「ジョンジーには、何か好きなことがないのかね？」



スーは答えました。

「ジョンジーは、いつかイタリアの海の絵を描きたいと言っていましたけれど……」

「絵を描く？ そうじゃなくて、何かもつと元氣が出ること……。恋人はいないのか？」

「恋人？ 恋人はいませんね」

「そうか……。私ができることは、全部する。」

でも、ジョンジーが元氣になりたいと思わないと、病氣はよくならないんだよ……」

医者いしやが帰ると、スーは自分の部屋へやへ行いって、一人で泣なきました。

——ジョンジーの病氣びやうきはよくならない？ じゃあ、ジョンジーは、……死ぬ？

嫌いやよ、そんなの。死しなないで、ジョンジー！——

スーは、少し泣いた後で言いました。

「いつまでも私が泣いていてはだめだわ」

そして、自分の部屋を出て、

ジョンジの部屋に入っていました。

ジョンジは、青白い顔で寝ています。

スーは、ジョンジのベッドのそばで、

静かに絵を描き始めました。



スーが絵を描いていると、ベッドから小さな声が聞こえました。

ジョンジーの顔を見ると、ジョンジーは、目を大きく開けていました。

そして、窓の外を見ていました。



「十二」と、ジョンジーは言いました。

それから、「十一」……、十……、九……」

そして、「八、七……」と言いました。

窓の外に見えるものは、隣の家の壁だけです。

隣の家の壁には、窓が一つもなく、

古いツタだけがありました。

その古いツタには、葉が少しだけついていました。

外は、強い風が吹いています。



スーは、ジョンジーに聞きました。

「ねえ、何を言っているの？」

「六」

ジョンジーが、また小さな声で言いました。

「三日前は、百枚ぐらいあったのよ。でも、今は……。」

ああ、また……。もう五枚だけね」

スーが聞きました。

「五枚？ 何が五枚なの？」

「ツタの葉よ。最後の一枚がなくなると、私は死ぬの」

「何を言っているの？ さあ、スープを飲んで。」

あまり食べないから、元気が出ないのよ」



「何もいらなわ。私はもうだめ。もう疲れたの。ツタの最後の葉と一緒に死ぬの……」

スーは、ジョンジーの手をとって言いました。

「ジョンジー、そんなこと言わないで。もう、窓の外は見ないでね。」

少し寝て。私は絵を描くから」

スーは、窓のカーテンを閉めました。そして、下の部屋のベアマンさんを呼びに行きました。

ベアマンさんは、スーとジョンジーの友だちです。ときどき、スーの絵のモデルになるの

です。

ベアマンさんも画家でした。もう六十歳でした。

四十年も絵を描いていますが、いい絵は一枚も描いたことがありません。

若い画家のモデルになって、お金をもらっています。そのお金でお酒を飲んで、

「私もいつか、いい絵を描いて、金持ちになる！」と、いつも言っていました。

スーは、ジョンジーが言ったことをベアマンさんに話しました。

ベアマンさんは、とても悲しくなりましたが、

大きな声で、笑いながら言いました。

「何？ ツタの葉？ ツタの最後の葉と一緒に死ぬ？」

何を言っているんだ、ジョンジーは。

バカだなあ。ジョンジーは、まだ若い。

だめだ、そんなことを言っでは」

スーとベアマンさんは、

ジョンジーの部屋に行きました。

「よく寝ているわ。私の部屋へ行きましょう」

二人は、スーの部屋に行って、窓から外を見ました。



風が強く、雨も降っています。

そこには、ツタの葉が

一枚だけありました。

—— 最後の一枚…… ——

二人とも心の中で言いました。

そして、静かに外を見ていました。

それから、ベアマンさんは、

椅子に座ってスーの絵のモデルになりました。

風と雨が、だんだん強くなっていきました。



次の日の朝です。ジョンジーが言いました。

「お願い。カーテンを開けて。ツタの葉はまだある？ 早く見たいの」

最後の一枚は、まだあるでしょうか。スーは、とても心配でした。

ゆっくりカーテンを開けました。すると……、ああ、ありました！

隣の家の壁に……。最後の一枚が、まだありました！

ジョンジーが言いました。

「最後の一枚ね。昨日は風が強かったから、もう一枚もないと思っていただけで……。

今晚、あの葉もなくなるわ。そして、私も死ぬの」

スーは困りました。

「そんなこと言わないで。さあ、元氣を出して。スープを飲んで」

でも、ジョンジーは、スーの言葉に何も答えませんでした。

そして、スープも飲みませんでした。